

青森市における工業構造について

油 布 一 之

I はじめに

本論文は、商業都市・交通拠点都市としてのイメージが強い青森市の工業構造について研究したものである。商業に比べ青森市の工業は大きな立ち遅れをみせており、都市内容の高度化の妨げとなっていることは、近年大きな問題となってきた。また、青森市の工業構造についての論文は例が少なく、とりあげられたとしても、都市構造の中のひとつの機能として論ぜられたものばかりであった（横山、1982）。そこで筆者は、未だ完全な工業地域を形成するに至っていない青森市をこの論文の研究地域として定め、青森市における工業構造の実態（概況および問題点）を明らかにすると共に、工業振興施策（青森地域テクノポリス開発計画など）を中心に、青森市の工業展開の将来の方向について考察を加えてみることにした。

II 青森市における工業の実態

1. 青森市の工業概況

昭和55年（以下昭和を略す）の工業統計書によると、青森市の製造業事業所数は777、従業者数は9,873人、製造品出荷額は1,058億円であった（第1表）。前年と比べると事業所数・従業者数ともに減少しているのに対して、製造品出荷額は金額にして5.9%の伸びを示し、1,000億円の大台にのった（第2表）。

45年～50年にかけては、かなり活発な伸びを示していたが、オイル・ショック後の50年以降になると伸びも緩慢化し、ここ数年の停滞傾向には著しいものがある。

青森市の工業は、食料品、家具・装備品、木材・木製品といった地域の農林水産業を背景として発展してきた地場資源型工業や、県庁所在都市の情報機能をにう出版・印刷などの業種に特化しており、軽工業が主体となっているのが特色である（第3表）。

2. 青森市の工業における問題点

青森市の工業は、事業所数の88.2%、従業者数の87.6%、製造品出荷額の90.9%を軽工業が占め、重化学工業は低調であるということは前項でも述べた通りである。重化学工業の中でも特に、内陸型産業で全国的にはウェイトの高い機械系4業種の構成比が、製造品出荷額で2.2%（全国平均32%、県平均8.2%）に過ぎず、機械工業の未成熟が工業停滞の主要因の1つとなっている。

工業が全体的に未成熟な原因は、その経営規模にもあらわれている。第4表に示すように、55年には全事業所中、従業者9人以下の事業所数が556（71.6%）、10～29人の事業所数が163（19.0%）と従業者30人未満の事業所が全体の9割を超え、経営規模の零細性がうかがえる。

しかし、このような軽工業主体、経営規模の零細性以上に市工業が抱えているもっと大きな問題は、工業生産性の低さである。第5表に示すように、従業者1人当りの出荷額では、全国平均の2,066万円に比べて、県平均は1,359万円と低いが、青森市は1,072万円とさらに下回っている。さらに従業者1人当りの付加価値額でも全国平均の686万円に対し、青森市は粗付加価値額でも436万円に過ぎない。このような工業の低生産性は、今まで述べてきた軽工業主体の業種構成や経営規模の零細性、多くの業種に見られる集積規模の小ささに起因していると考えられる。

第1表 各市の事業所数・従業者数・製造品出荷額（1980年）資料：「工業統計書」

	事業所数	従業者数	製造品出荷額
県計	4,082(100.0%)	63,301人(100.0%)	86,047,502万円(100.0%)
青森市	777(19.0)	9,873(15.6)	10,583,066(12.3)
八戸市	852(20.9)	18,032(28.5)	41,671,785(48.4)
弘前市	634(15.5)	7,653(12.1)	6,274,307(7.3)
黒石市	116(2.8)	2,010(3.2)	2,493,214(2.9)
五所川原市	105(2.6)	1,392(2.2)	1,233,522(1.4)
十和田市	211(5.2)	3,554(5.6)	3,297,865(3.8)
三沢市	107(2.6)	2,047(3.2)	2,245,436(2.6)
むつ市	91(2.2)	1,844(2.9)	2,120,738(2.5)

第2表 青森市の年次別工業推移表

資料：「工業統計書」

年次	事業所数			従業者数			製造品出荷額		
	実数	昭和45年 = 100	対前年比 (%)	実数 (人)	昭和45年 = 100	対前年比 (%)	実数(万円)	昭和45年 = 100	対前年比 (%)
昭和45年	812	100.0	—	11,101	100.0	—	3,534,684	100.0	—
46	813	100.1	100.1	11,153	100.4	100.4	4,243,719	120.0	120.0
47	874	107.6	107.5	11,251	101.4	100.8	4,545,503	128.6	107.1
48	839	103.3	96.0	11,120	100.2	98.8	5,861,707	165.8	129.0
49	810	99.8	96.5	10,794	97.2	97.1	6,542,344	185.1	111.6
50	909	111.9	112.2	11,245	101.3	104.2	7,816,871	221.1	119.3
51	868	106.9	95.5	11,074	99.8	98.5	8,656,326	244.9	132.3
52	833	102.6	96.0	10,390	93.6	93.8	9,297,899	263.0	107.4
53	844	103.9	101.3	10,107	91.0	97.3	9,439,721	267.1	101.5
54	798	98.3	94.5	10,197	91.9	100.9	9,991,595	282.7	105.8
55	777	95.7	97.4	9,873	88.9	96.8	10,583,066	299.4	105.9

第3表 青森市の業種別事業所数・従業者数・

製造品出荷額と構成比(1980年)

資料:「工業統計書」

業 種	事業所数		従業者数		製造品出荷額	
	実数	構成比%	実数(人)	構成比%	実数(万円)	構成比%
総 数	777	100.0	9,873	100.0	10,583,066	100.0
食 料 品	254	32.7	4,128	41.8	5,087,265	48.1
織 維	4	0.5	13	0.1	5,238	0.05
衣服その他繊維製品	19	2.4	147	1.5	121,399	1.1
木材・木製品	70	9.1	690	7.0	890,985	8.4
家具・装備品	129	16.6	646	6.5	358,055	3.4
パルプ・紙・紙加工品	14	1.8	255	2.6	630,499	6.0
出版・印刷	80	10.3	1,868	18.9	1,652,733	15.6
化学工業	6	0.8	112	1.1	178,576	1.7
石油・石炭製品	5	0.6	32	0.3	114,978	1.1
ゴム製品	1	0.1	×	—	×	—
皮革・同製品	1	0.1	×	—	×	—
窯業・土石製品	31	4.0	483	4.9	620,003	5.9
鉄 鋼	9	1.2	71	0.7	66,747	0.6
非鉄金属	2	0.2	×	—	×	—
金属製品	46	5.9	333	3.4	242,806	2.3
一般機械	11	1.4	63	0.6	39,465	0.4
電気機械器具	3	0.4	76	0.8	47,712	0.5
輸送用機械器具	7	0.9	125	1.3	92,149	0.9
精密機械器具	3	0.4	226	2.3	43,801	0.4
そ の 他	82	10.6	427	4.3	242,067	2.3

* 表中の「×」は事業所数が1の場合、秘密の保持上秘匿したことを示す。
また、2事業所以上でも各統計表の関連から秘匿したものもある。
秘匿数字は総計に合算した。

第4表 青森市工業の従業者規模別構成(1980年)

資料:「工業統計書」

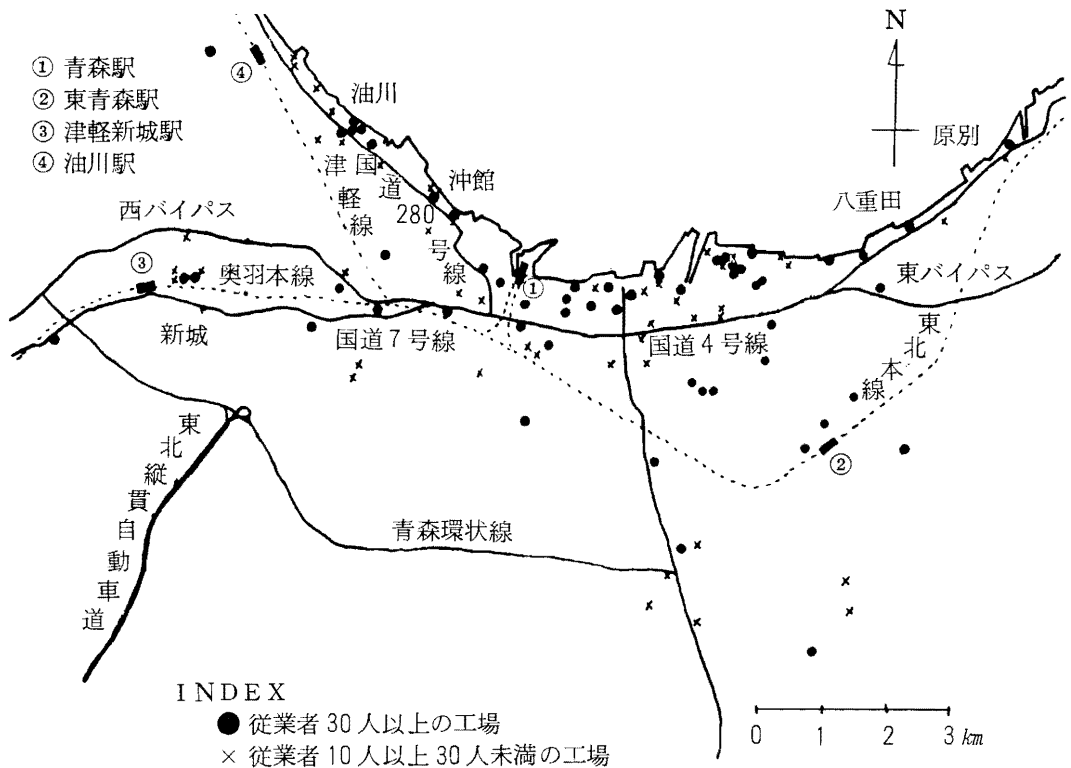
従業者規模	事業所数		従業者数		製造品出荷額	
	実数	構成比%	実数(人)	構成比%	実数(百万円)	構成比%
9 人 以 下	556	71.6	2,346	23.8	13,598	12.8
10 ~ 19 人	122	15.7	1,963	17.1	14,715	13.9
20 ~ 29 人	41	5.3	1,004	10.2	12,518	11.8
30 ~ 199 人	54	6.9	3,473	35.2	46,611	44.0
200 人 以 上	4	0.5	1,357	13.7	18,387	17.4
総 数	777	100.0	9,873	100.0	105,831	100.0

第5表 国・県・市の工業生産性比較(1980年) 資料:「工業統計書」「青森県の工業」

	青 森 市	青 森 県	全 国
従業者1人当りの出荷額	1,072 (万円)	1,359 (万円)	2,066 (万円)
従業者1人当りの付加価値額*	436**	428	686

* 付加価値額=生産額-(原材料使用額+内国消費税額+減価償却額)

** 粗付加価値額:上の公式から減価償却額を省いたもの



資料：全国工場通覧（1981年）

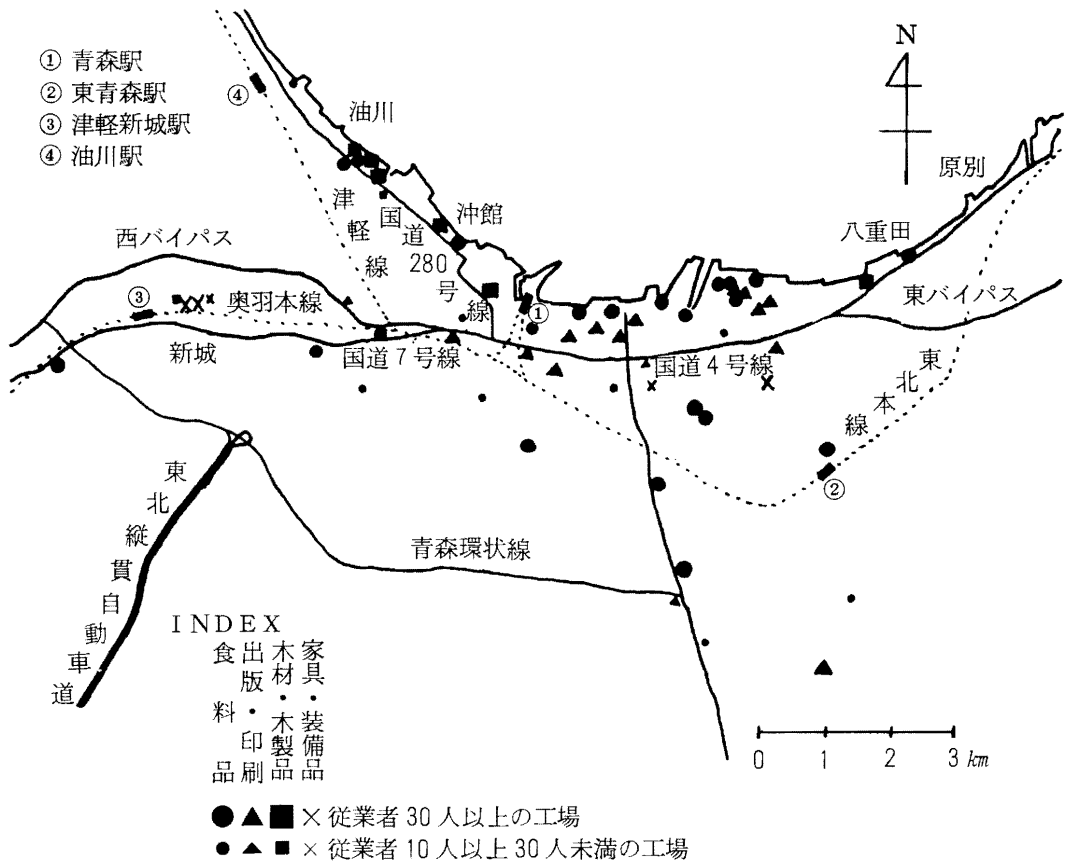
第1図 青森市の工場分布（従業者規模別）

Ⅲ 工場立地と誘致企業

1. 青森市の工場立地

第1図に示すように、青森市の工場分布は市街化区域の中でも特に旧市街地に集中しており、他には油川の木材コンビナート周辺、新城の木工団地に、規模こそ小さいが集中的な立地が見られる。用途地域と関連してみた場合、臨海部の工業地域・準工業地域での立地が多いものの、旧市街地の中の商業地域や住居地域にも立地が多いといえよう。

工場の分布を業種別に見てみたのが、第2図である。食品のうち水産加工品業は、原料となる鮮魚が得やすいこと、地価が安いことなどから、そのほとんどが臨海部に立地している。これに対して味噌・醤油醸造業は、原料用水の関係からそのほとんどが河川の近くに立地している。出版・印刷は、官公庁の集中する中央・長島・本町・古川地区と、堤川以東の合浦地区に集中的立地が見られる。木材・木製品は、沖館から油川にかけての地域、特に油川地区の木材コンビナートにほとんどの工場が立地している。この地域は木材港を近くにひかえているため、原料となる原木が得や



第2図 青森市の工場分布（業種別）

すいこと、地価が安く貯木のための広い敷地を確保できたことなどを理由に、集積が進んだといえよう。

2. 誘致企業

青森市には、31年5月に操業を開始した雪印乳業に始まり、55年4月までに8企業が誘致されている。8企業のうち7企業が県外からの誘致企業であり、地元の労働力供給を立地の重点としている。県外からの誘致企業は、地場産業にとって良い刺激となり、また地元労働者の雇用という点で地元経済に寄与するなど、様々な利点を有している。そのため市の側でも、事業税・固定資産税の3ヶ年課税免除や補助金の交付といった優遇措置を用意し、積極的に誘致を行なっているが、昨今の不況下にあってはそれもままならぬというのが現状である。

Ⅳ 青森市の工業展開の将来の方向

現在、青森市では将来に向けて、東北縦貫自動車道・新青森空港といった高速交通体系の整備を進めているが、これは青森市の工業にとって重要な意義をもっていると考えられる。高速交通手段に

よる輸送時間の短縮と運行時間の正確化、輸送力の強化と輸送の弾力化は、工業面において「工場立地の移動」「地場産業の市場拡大」「生産・流通管理の合理化」といったメリットをもたらすことが考えられる。青森市が現在進めている「青森地域テクノポリス開発構想」は、このような交通基盤の整備を大前提として、バイオテクノロジー利用産業・メカトロニクス関連産業等を導入・育成し、これを核として産業の再編成を促進し、本県産業構造の高度化と県経済の均衡ある発展を目標としている。特に、既存工業の集積が低い青森市の場合、このような大規模プロジェクトによる新規産業の積極的な導入は、全体的な工業生産の拡大、質的向上につながると思われる。この計画の実現のためには、学術・研究機能の整備と共に、産業基盤の整備が必要であると考えられる。

青森市の工業を特色づける地場産業は、販売力・流通機能の強化、経営規模の拡大と集積の促進を進めながら高度化をはかるべきだと思われる。また、集積が極めて低く、工業停滞の主要因の1つとなっている機械工業の未成熟については、その改善が必要だと思われる。地域の生産技術水準を高め、またテクノポリス計画実現への準備過程としても、機械工業を含めた都市型工業の誘致が望まれる。そのためにも、誘致企業の受け皿としての工業団地・工場適地の造成に、さらに力を入れるべきだと考えられる。青森市の工業の今後の大きな課題としては、業種構成の高度化、零細・低生産性企業の体質改善を図っていくことが早急に望まれる。

V ま と め

これまでの記述を要約すると次のようになる。

1) 青森市の工業は、商業に比べると立ち遅れが目立ち、都市内容の高度化の妨げとなっている。また、ここ数年の停滞傾向は著しく市工業は不振である。

2) 業種別に見てみると、市工業は軽工業主体であり、その中でも食料品製造業の全体に占める割合が高い。経営規模の零細性、工業生産性の低さは、市工業停滞の主要因であり、大きな問題点でもある。

3) 青森市の工場分布は、市街化区域の中でも特に旧市街地に集中している。水産加工品業は臨海部、味噌・醤油醸造業は河川の近く、出版・印刷業は官公庁の近く、製材業は木材コンビナート周辺に、それぞれ立地している。

4) 青森市の工業を振興させるための主な対応策としては、地場産業の高度化、機械工業を中心とする都市型工業の充実、テクノポリス開発構想の実現などが考えられる。また、企業誘致のための受け皿づくり、高速交通体系の整備は、市工業の大きな課題である。

末筆ながら、常日頃より御指導賜わっている水野裕先生、後藤雄二先生、並びに昨年3月弘前大学を御退官された横山弘先生に、それぞれ深く感謝の意を表します。さらに、青森市役所文書統計課・商工労政課・企画調整課などの諸氏から資料提供、ならびに御協力をいただいた。ここに記して謝意を表します。

【参 考 文 献】

- 青森県企画部統計課（1980）：工業統計調査結果書「青森県の工業」 158頁
- 木内信蔵（1973）：地域概論 東京大学出版会 370頁
- 尾崎雅子（1966）：青森市に於ける工業地域について 弘大地理2号, 33～34
- 嵯峨 優（1975）：秋田湾臨海地区における工業構造 秋大地理22号, 16～22
- 通商産業省編（1981）：全国工場通覧
- 山鹿誠次（1973）：都市の研究と診断 大明堂 273頁
- 横山 弘（1982）：青森県の都市 津軽書房 189頁